安全に関する注意事項

手におえないと思ったら専門の業者に！

この冊子では、一般的な木造住宅に関する維持管理（点検と簡単な修理）のしかたを記載しています。皆様方自らができるものと専門の業者でないと難しく、また危険なものがありますのでくれぐれも無理をせず、少しでも危険だと感じたら専門の業者に依頼しましょう。

取扱説明書は必ずお読みください！

最近の住宅では構造・設備面でも新しい技術が使われ、維持管理のしかたも多様化しています。

それぞれの取扱説明書をよく読んで、警告表示などの内容をよく理解してから維持管理を行なってください。

本書の記述と取扱説明書が異なる時は、取扱説明書にしたがってください。特に取扱説明書に「禁止事項、危険事項」の記述のあるものなどは絶対に行なわないでください。

●注意事項一覧

- ○屋根にのぼる作業は転落事故を引き起こしかねません。少しでも危険だと感じたら専門の業者に依頼してください。
- ○はしご、脚立を使っての高所での作業は転落事故を引き起こしかねません。少しでも危険だと感じたら専門の業者に依頼してください。
- ○ドアクローザーの不具合は少しづつ調整してください。また、木製のドアは意外に重量があり危険が伴う場合もありますのでご注意ください。
- ○浄化槽上部のマンホールのふたは、ずれたり外れたりすると大変危険ですので、きちんとしめてロックを施してください。
- ○ガス漏れに気づいたら、ガス漏れ箇所がわかる場合は、その元栓を閉め、すばやく窓などを開けて換気します。わからない場合は、換気した後に、ガスメーターのメインバルブを閉めます。なお、引火の恐れがあるので換気扇や照明器具などのスイッチ類にはふれないでください。
- ○ガス給湯器の排気口付近は高温になります。火傷の恐れがありますのでご注意ください。また、排気口をふさぐと、火災や不完全燃焼の恐れがありますので排気口の付近に物は置かないでください。
- ○アース線をガス管に接続するのは大変危険であり絶対しないでください。また、水道管も塩ビ管が多くなっているため、アース効果は期待できません。
- ○電気設備は、使い方を誤ると重大な事故になる恐れがあります。器具の取扱説明書をよく読んで、内容を理解してから使用してください。
- ○塩素系の漂白剤と、酸性の洗剤・洗浄剤を一緒に使うと有毒な塩素ガスが発生しますので絶対にまぜないでください。